

- 自然と人との共生をめざして -

公益財団法人 淡海環境保全財団

表紙写真 夕靄かかる烏丸半島 (草津市)

## 「しがCO<sub>2</sub>ネットゼロまちづくり」を進めています

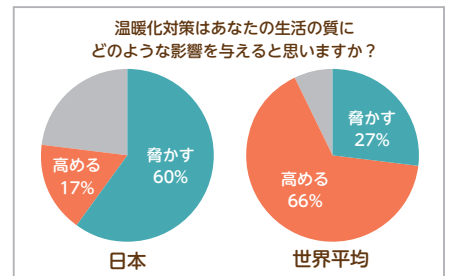
「まちづくり」の視点からCO<sub>2</sub>ネットゼロに取り組む住民活動、「しがCO<sub>2</sub>ネットゼロまちづくり」事業に滋賀県地球温暖化防止活動推進センターでは取り組んでいます。まちづくり協議会や自治会などさまざまな地域組織に、「しがCO<sub>2</sub>ネットゼロまちづくり」宣言をしていただき、その地域の特性や課題に応じた温暖化対策に住民主体で取り組んでいただくこの事業は、CO<sub>2</sub>削減を図るだけでなく、地域が活性化し、持続可能なまちづくりを可能とする取り組みです。

### 地球温暖化対策は「生活の質」を高める!?

「地球温暖化対策」を推進すると、私たちの「生活の質」はどうなるのでしょうか？ここに大変興味深い調査結果があります。「地球温暖化対策」が「生活の質を高める」と回答した割合を見ると、世界平均では66%であるのに対し、日本ではわずか17%となっています。一方、「生活の質を脅かす」と答えた人は世界で27%、日本は60%と全く逆の結果となりました。

わが国では「温暖化対策」というと、「我慢するもの、生活が不便になるもの」と、多くの人が受け止めている実態が明らかになりました。

そして、各個人・各家庭がそのような「我慢を強いられる」と捉えているところにわが国の温暖化対策の課題があると考え、温暖化対策を地域づくり、まちづくりと一体的に考えることにしました。温暖化対策に取り組むことは、地域を活性化させ、まちを元気にすること、さらに、安全で安心な地域づくりを進めることであり、結果、地域住民の「生活の質」を向上させる、そのような取り組みをと考え、「しがCO<sub>2</sub>ネットゼロまちづくり」を推進しています。滋賀県地球温暖化防止活動推進センターが、取り組みを始めて4年目になりますが、今回、その取り組みの一端をご紹介します。



2015年世界市民会議「気候変動とエネルギー」をもとに作成

### 「桐原学区協働まちづくり協議会」(近江八幡市)の先駆的取り組み

「温暖化を防ぎ・備えつつ、人と人をつなぎ、『幸せ』と『安心』を高めていくのが桐原の目指す『まちづくり』」。全戸配布された冊子「いま、桐原の未来をつくる時」の表紙にその想いがこのようにつづられています。桐原での取り組みは、2019年7月に宣言された、全国初の「省エネ・脱CO<sub>2</sub>まちづくり宣言」に始まります。

当時、「幸せ・豊かさ・活力」のあるまちづくりに熱心に取り組まれていた「桐原学区協働まちづくり協議会」では、

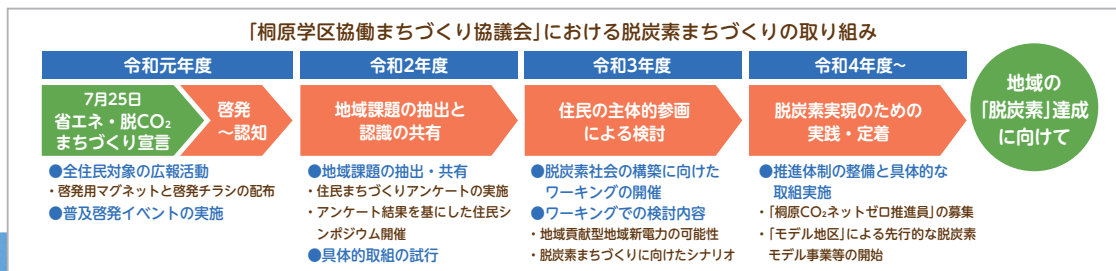
- ① 未来の桐原の子供たちに、幸せにこの地で暮らせる環境を引き継ぎたい。
- ② 地域一丸となった取り組みを通じて育まれる「人のつながり」や「地域力」が、今を生きる私たちの「幸せ」や「安心感」を高め、桐原を豊かにしてくれる。

との強い思いで、「省エネ・脱CO<sub>2</sub>」の宣言を行い、新たな一歩を踏み出すことを決意されました。

そして、「啓発」から「主体的実践」へと、ステップバイステップで今日まで取り組みを進めておられます。



「いま、桐原の未来をつくる時」表紙



## Index

- |   |  |
|---|--|
| 1-2 表紙特集 「しがCO <sub>2</sub> ネットゼロまちづくり」を進めています          | 5 開催報告 TOYOTA SOCIAL FES!! Presents 琵琶湖環境学習プロジェクト/「ESD推進ネットワーク全国フォーラム2022」事例報告 |
| 3 その人に聞く 滋賀県立大学環境科学部 環境政策・計画学科准教授 平岡 俊一さん               | ベトナム ハロン湾から  |
| 4 日本ヨシ紀行~ヨシの風景を訪ねて~ 京都府向島 滋賀県地球温暖化防止活動推進員リレートーク 西村 吉弘さん | 6 おしらせ・イベント情報  |

## 今、県内各地で「CO<sub>2</sub>ネットゼロまちづくり」の輪が広がっています

これまでに5つの地域で、「CO<sub>2</sub>ネットゼロまちづくり」が宣言されました。その「地域」は、桐原のように学区単位の「まちづくり協議会」もあれば、自治体単位、自治会や自治会連合会など多様な規模、組織があります。「地域」のまちづくりの特徴に合わせた、それぞれやりやすい形での取り組みが進んでいます。



### 子どもたちに地元愛と地球温暖化対策を引き継ぐ 「今浜自治会」(守山市)

「環境学習都市」を宣言されている守山市の今浜自治会では、自治会単位という規模で、地域に密着したきめ細かな取り組みで成果をあげています。

特徴的な事業の一つ「子どもまち探検～気候変動適応マップ作成」では、温暖化に伴う異常気象による災害に備えるため、地域の小学生を中心に危険箇所をまとめました。「いつも歩いているこの道は、この前の豪雨の時、ここまで浸水したんや。」などの地域の古老の話を取り取りながら、災害時に危険となりそうな場所を地図に落とし込み、自治会館に貼り出して住民に周知しました。



危険箇所の確認

### 令和4年度 「しがCO<sub>2</sub>ネットゼロみらい賞」受賞！ 「竜王町エコライフ推進協議会」(竜王町)

竜王町では、自らエコライフを実践し、地域での普及を進めるエコライフ推進協議会が広く住民を巻き込みながら、グリーンカーテンやフードドライブなど身近なところから取り組み、町全体にエコの輪が広がりつつあります。昨年秋には企業や行政とともに町民が楽しみながらエコに取り組む、「CO<sub>2</sub>ネットゼロ宣言推進イベント」が開催されました。

それらの活動により、優れた取り組みを行った団体の功績をたたえる、令和4年度「しがCO<sub>2</sub>ネットゼロみらい賞」を受賞されました。未来を担う若い世代や、地域の事業者等との連携にも注力され、持続性や、活動の波及性が評価されました。



滋賀竜王CO<sub>2</sub>ネットゼロ宣言推進イベント「エコフェスタ」

### 制服のリユースにも取り組みCO<sub>2</sub>削減へ 「長峰自治会連合会」(東近江市)

昨年10月に宣言をされた「長峰自治会連合会」は、古着や制服のリユースや、ペットボトルのリサイクルに取り組んでいます。近年の豪雨により道路側溝から水があふれ出し、交通にも影響を与えているなど、様々な天災への脅威を感じていることから、住民一人ひとりが環境問題に取り組み、後世にこの環境を残していこうと宣言されました。

役員の方々が小椋東近江市長に宣言の報告と今後の取り組みへの決意を述べられ、市長からは「住民の皆さんの環境意識の高さを感じた。長峰が東近江の温暖化対策のリーダーになることを期待する。」と言葉がありました。



役員一同で小椋市長へ報告

### 「自覚者は責任者である」の意思で 脱炭素に取り組む 「日野地区運営協議会」(日野町)

日野町の中心エリアの自治組織である「日野地区運営協議会」が昨年11月に県内5例目となる宣言をされました。宣言文には、「滋賀の先達に『自覚者は責任者である』という言葉があります。問題に気づいた者が、まず問題解決に向けて自ら取り組む責任があるという意味です。」と地球温暖化の問題を自分のことと考え、自らが暮らしの中で、CO<sub>2</sub>ネットゼロまちづくりに取り組む思いを綴られました。

宣言を受けて堀江日野町長も、「綿向山の植生の変化から地球温暖化の影響を感じている。地域と行政が一緒になって自然あふれる町にしていきたい。」と言葉を述べられました。



宣言式の様子

## 終わりに



気候変動を抑えるためにパリ協定で合意された「1.5℃の約束」を守るためには、2050年までに温室効果ガスをゼロにしなければなりません。そのためには、早急に脱炭素社会へ大きくシフトチェンジする必要があり、家庭部門においても66%ものCO<sub>2</sub>削減が求められています。その実現のためには、地域課題を解決し、地域の特徴を活かした、活力ある地域づくりを進めることで、CO<sub>2</sub>ネットゼロのまちづくりを推進することが大きな力になると考えます。

我慢や不便な生活ではなく、「生活の質」を高める、そのようなまちづくりこそが今求められており、そのためのサポートを当センターが行ってまいります。県民の皆さんの力を結集して滋賀県を「CO<sub>2</sub>ネットゼロのまちづくり」で埋め尽くしましょう。

自然と人との共生をめざして

# その人に 聞く

滋賀県立大学環境科学部  
環境政策・計画学科 准教授

平岡 俊一 さん

学生時代を過ごされた京都で、「市民活動と地球温暖化」、「地域づくりとコミュニティ力」などのテーマで実務経験を積み、現在の研究の礎を得られた平岡先生は、ご自身の経験から、若者たちに「できるだけ多くの人に会って話を聞いて」と呼びかけられています。

2018年に滋賀県立大学に着任されてからも、環境問題の解決と持続可能な社会に向けた研究活動において顕著な功績をあげられ、当財団の事業でもお世話になっている平岡先生に、お話を伺いました。



— 北海道に長くお住まいでしたが、寒い北海道では地球温暖化の問題はどのように捉えられているのですか。

**平岡さん** 釧路で8年近く教鞭をとっていましたが、向こうでは自然が圧倒的で人は近寄りがない。そして寒さも半端でないのですが、断熱と暖房で室内は快適でした。関西に戻ってきたとき、こちらの家屋の寒さを認識させられ、参りました。健康のためにも住宅の断熱化の必要性を再認識しました。北海道の市民感情としてはもう少し暖かくなっていいのではと考えている人も少なくはないと思いますが、最近やはり温暖化対策に真剣に取り組まれています。

— 断熱住宅もそうですが、温暖化対策は実は生活の質を高めるものでもありますよね。今、県内で大きなムーブメントを起こそうと、当センターでは「**環境わご学生ネットゼロムーブメント事業**」に取り組んでおり、先生にも大変お世話になっています。

**平岡さん** 私自身、大学生の時に、恩師に「現場を経験してこい」とNPO法人気候ネットワークに放り込まれました。そこでは、絶妙なサポートで学生たちに活躍の場を提供し、自分たちがこれを成し遂げたという達成感を与えてもらう日々でした。あの時の経験があるから今の私があると言っても過言ではありません。

— 素晴らしい経験ですね。地球温暖化は若者やさらに次の世代により大きな影響を与える問題です。当センターとしても**学生たちの取り組みをもっと深め、拡げていきたいです。**

**平岡さん** 脱炭素でやれることにはハードルが高いものが多くて限定されがちです。若者の活動をもっと活性化させようと思うと、それをサポートする体制を作らないといけない。特に大事なのは、彼らに伴走していろいろ相談に乗り、アドバイスする、今回の学生事業でのセンター職員のような役割が必要だし、彼らが活躍できる場をお膳立てしないとイケないんじゃないでしょうか。

それと、程良い場を提供すると、面白いと思った人が集まってくるんですね。仲間がいる居場所としての面白さと、そこにいることが勉強になる、いろんな社会経験を積めるという魅力です。ぜひ滋賀県センターにも人の集まりやすい場づくりをして欲しいです。



学生事業で講評をされる平岡さん

— ありがとうございます。「人が集まる場」が大事という意味では、「しがCO<sub>2</sub>ネットゼロまちづくり」にも通じるものがあります。「まちづくり宣言」をされた地域がようやく5地域になりました。

**平岡さん** 地域づくりに脱炭素の要素を加えて進めるというのは面白いし、必要だと思いますが、現実にはなかなか難しい。たとえば、今も活発に動いている北海道下川町も、主目的



日野町の宣言記念講演会での平岡さん

的、やりたい事は持続可能な地域を作ることなんです。その中の一要素として脱炭素が、実現する上での大事なパーツで、それを組み入れて活発な展開をしてるんですよ。その発想でないと難しいと思います。

— それぞれの地域オリジナルの特徴あるまちづくりに脱炭素の要素を組み込むことが大事だということですね。

**平岡さん** そうです。私の研究フィールドのオーストリアやドイツでは、脱炭素に熱心な自治体の多くが、議会と地域が近く、住民と議論する機会を作っています。議会が中心となり、住民総出でまちの未来を考える未来対話のワークショップを開いて、その中で「うちのまちは気候エネルギーでやっぺいこう」と決めて取り組みを進めています。しっかり議論し、合意を形成する機会づくりは見習うべきです。

— 最後に、「まちづくり×温暖化」の成功へのカギは何だとお考えですか。

**平岡さん** まず勉強会をしましょう、地域資源探しから始めましょう、と伝えています。地味ですがそのプロセスは絶対不可欠です。住民参加型でみっちり議論して、資源出し、課題出しをして整理すること、それが合意を作る、やる気をかき立てることに大きな意味があるのです。でもそれを地域の人たちだけでやるのは難しいと思います。議論のコーディネーター、ファシリテーターをする支援者の存在が必要だと思います。そして私は、脱炭素の地域での取り組みをサポートする存在として、地域の温暖化センターがとても重要だと思っています。

— ご期待の重さをひしひしと感じます。頑張ってください。今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

# 日本 ヨシ紀行

ヨシの風景を訪ねて

## 第14回 向島

むかいじま

(京都府伏見区向島大黒)

琵琶湖の水は、瀬田川を経て、京都府に入ると宇治川となります。その宇治川の左岸に、向島のヨシ原があります。広さは約35haで、もと



向島のヨシ原

もとは「巨椋池」と呼ばれる宇治川の遊水池の、ヨシ原の名残といわれています。ここは、ピーク時には数万羽ものツバメが集まって来る、近畿地方有数のツバメのねぐらとなっています。

このヨシは、琵琶湖周辺のヨシ業者から「淀のヨシ」と呼ばれており、以前からヨシの流通や人の交流がありました。

京都の文化との関わりが深く、桂離宮などの文化財にもよらず屋根材として多用されており、地元の三栖神社の炬火祭(毎年10月)にも使われています。近年では、バ



三栖神社の「炬火祭」



イオマスプラスチックの走りとしてヨシ箸が作られたり、和紙や糸、食品など、地元企業が積極的にヨシの製品化を行い、新しい利活用が進められています。

この地では、地元のヨシ業者が長年にわたって、「ヨシ刈り」や、ヨシ刈り後に残った立ち枯れを焼く「ヨシ焼き」などの地道な維持保全を行っていました。

一時中断もありましたが、地域の皆さんの熱い思いで平成25年春にヨシ焼きが再開されました。その後、「宇治川のヨシを守るネットワーク」が設立され、毎年ボランティアによるヨシ焼き、ヨシ刈りを実施されています。

このように、向島では人々と事業者が一緒になって、地域の環境や伝統文化を守りながら、地域活性化を同時に達成されています。



製作に1年かけ完成し、奉納された炬火

写真提供 山城萱葺株式会社、三栖神社祭礼実行委員会

## 滋賀県 地球温暖化防止 活動推進員 リレートーク



西村 吉弘さん  
日野町在住

今回は、先日の日野地区運営協議会の「しがCO<sub>2</sub>ネットゼロまちづくり宣言」(本誌P.2参照)に至るまで、そして今後のために、ご尽力されているこの方です!

江戸時代に建てられた近江日野商人の本宅に、数年前に移住してこられたご一家。ご夫人が「金継ぎ師」をされている。壊れた陶器を修復する技術をビジネスとされている方である。工房へ伺うと、棚にはいくつもの仕掛かり中の陶器や完成品が並んでいる。工程は、先ず割れた箇所を「うるし」でつないで、最後に「金」や「銀」を乗せる。時間をかけて丁寧に仕上げる。歴史ある茶器、記念のお皿なども、金継ぎ師さんの手で息を吹き返して一段と輝きを増す。見事な技術だ。最近ではテレビでも紹介され、隠れた人気で、「金継ぎ」を学ぶ人も増えているようだ。

環境キーワードFRのひとつのRepair(リペア)は、必要な修理を施して大切なものを長く使う、まさにCO<sub>2</sub>の排出を抑え持続可能な社会を実現していく第一歩だ。地域での、こうした貴重な営みを紹介していくのも、地域で活動する推進員の役割のひとつだと思う。



放課後児童クラブの子どもたちに  
家庭の温暖化対策を伝える西村さん

滋賀県地球温暖化防止活動推進員は、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき、滋賀県知事より委嘱され、普及啓発活動を推進されています。

TOYOTA SOCIAL FES!! Presents

琵琶湖環境学習プロジェクト

「水環境や生態系を守るヨシの役割を学び、保全しよう！」

楽しみながら自然を守るという想いのもと、2012年に日本全国47都道府県で始まった「TOYOTA SOCIAL FES!!」が、11月26日(土)に滋賀県草津市の淡海環境プラザで開催されました。

今回は琵琶湖の「ヨシ」にスポットライトを当てて、水環境や生態系を守る役割や、その利用方法について、座学やワークショップを交えながら参加者の皆様にご紹介させていただきました。

ヨシには主に、「鳥や魚などの様々な生きもののすみかになる」、「屋根の材料やすだれとして人の暮らしに役立つ」、「びわ湖の水をきれいに保つ」、という3つの役割があることをお話した後、実際にプラザ近くのヨシ群落を見学していただきました。

また、ヨシを守っていくためにはヨシの活用が大切ということもあり、今回ヨシの新しい利用方法として「ヨシの穂を使った



ヨシ観察後の記念撮影

クリスマススワッグ」づくりを行いました。参加者の皆様は、ヨシの穂をベースにさまざまな木の実やヒノキの葉っぱをデコレーションして、それぞれとても素敵なスワッグを完成させ、ヨシの質感を直に感じていただきました。



完成したヨシスワッグと

ヨシを保全していくために最も大切なことは、たくさんの方にヨシの価値を知っていただくことです。今回のTOYOTA SOCIAL FESが、参加者の皆様にとって、少しでもヨシに興味を持ち、大切にしようと思えるきっかけになれば、未来の琵琶湖もたくさんの命が輝く湖になること間違いなしです!!

「ESD推進ネットワーク全国フォーラム2022」にて事例報告を行いました

12月10日(土)、「ESD推進ネットワーク全国フォーラム2022」(ESD活動支援センター、文部科学省、環境省主催)が開催されました。従来のESD教育は自然体験や生物多様性、ゴミ循環が主なものでしたが、本フォーラムで、気候変動対策を切り口として推進することで、今後の持続可能な社会づくりの創り手を育成する方向へ進もうという提案がされました。

セッション2の「気候変動や脱炭素をテーマにした地域事例紹介」で、学校と地域拠点とで取り組むESD事例の一つとして、比叡山高校の伊藤先生と当財団職員が登壇し、同校で実施した授業の事例報告をしました。

究極のエコバッグ「風呂敷」を温暖化対策の一つとしてどのように広げていけば良いかを自分たちで考え、プレゼンを行う計10時間の単元授業であり、若者らしい多くのアイデアが詰まった社会変革にも繋がる期待が持てる内容で、会場70名、オンライン250名の聴衆が大いに盛り上がりしました。

「地域ESD活動推進拠点」モデルと当財団の取り組みを紹介することができました。



全国フォーラムでの発表



比叡山高校での授業(10月)

ESDはEducation for Sustainable Developmentの略で「持続可能な開発のための教育」と訳されています。持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動で、ESDは持続可能な社会の創り手を育む教育です。



JICA(国際協力機構)の専門家「グリーン成長政策アドバイザー」の活動を紹介します。

南北に長いベトナムは、北は中国、西はラオス、南西部はカンボジアと国境を接しています。ベトナム東北部のクアンニン省も中国と国境を接しており、その国境の町2か所を訪問しました。一つはモンカイ市、夏は海辺のリゾートとして中国人観光客でにぎわう街です。特別の許可を得て国境ゲートの中に入ると、小さな川を隔てた対岸が中国で、川にかかった橋の中央が国境線でした。どこからか中国語の音楽が大音量で流れており、国境ゲート独特の雰囲気があります。もう一つはビンリエウ郡です。こちらは山岳地帯で山の斜面に国境を示すフェンスが張り巡らされてい

ます。国境ゲートもありますが、中国との物流に使われており、観光客の出入りはありません。この2つの国境地帯はクアンニン省での観光スポットになっています。観光といっても国境の向こう側を眺めるだけです。海外旅行が一般的な時代ですが、静かに異国に思いを馳せる気持ちは何となくわかります。



橋の中央が国境線、対岸が中国(モンカイ市)



山腹のフェンスが国境(ビンリエウ郡)

「琵琶湖流域生態系の保全・再生」と  
「MLGs・暮らしと湖の関わりの再生」をめざして **水草たい肥を配布します**



滋賀県と財団では、琵琶湖の南湖を中心に異常繁茂する水草の刈り取り事業を実施しており、刈り取った水草をかつてのように農地で有効利用するため、たい肥化などの試験研究を行いながら、資源としての有効活用に取り組んでいます。

その一環として、水草たい肥で植物を育てていただく水草たい肥モニター※に登録いただいた方(配布当日の登録可)に無料配布します。

※水草たい肥を使用して野菜などを栽培し、使用状況や感想等をアンケート様式で回答してください。 ※水草たい肥は無料ですが、琵琶湖の水草対策に活用させていただくため、寄附をお願いします(任意)。

**お一人当たりの配布量は、軽トラック1台分程度、袋詰めの場合は10袋程度(袋をご持参ください)とさせていただきます。各日、たい肥がなくなり次第終了します。**

開催日	時間	場所	住所
2月25日(土)		大津港 南側	大津市浜大津
2月26日(日)		琵琶湖博物館 東側	草津市下物町
3月4日(土)	10:00 }	JR高月駅 北西 高月中学校跡地	長浜市高月町高月
3月5日(日)	14:00	米原小・中学校 間通路	米原市入江
3月11日(土)		JR近江今津駅 南側	高島市今津町今津
3月12日(日)		近江八幡市役所 南側	近江八幡市桜宮町

「冬の省エネ・節電取組推進キャンペーン」開催中!

2023年  
2月20日(月)  
まで!

以下の3項目いずれかの取り組みを実施して特設サイト申込フォームよりご応募ください。抽選で500名様に滋賀県産品がプレゼントされます。

「スマート・エコハウス普及促進事業補助金」対象設備を導入・購入し、2023年2月17日までに申請書を提出する。

統一省エネラベル2つ星以上のエアコン、テレビ、冷蔵庫を購入する。

県特設ウェブサイトの「省エネ効果の見える化」ページで、850kg-CO<sub>2</sub>/年以上の排出量削減に取り組むことを宣言する。



※滋賀県にお住まいの個人が対象 ※「しがCO<sub>2</sub>ネットゼロムーブメント」への賛同が必要です  
※詳しくは滋賀県HPまたは「ゼロナビシガ」をご確認ください

イベント情報

2023年 1月～3月

イベント名	開催日	時間	場所	内容
「冬の省エネ・節電取組推進キャンペーン」 ※滋賀県にお住まいの個人が対象 ※「しがCO <sub>2</sub> ネットゼロムーブメント」への賛同要	12月1日(木) ～2023年 2月20日(月)	—	—	指定の3項目いずれかの省エネ・節電につながる取り組みを実施して特設サイト申込フォームより応募された方から、抽選で500名様に滋賀県産品が当たります。
地域脱炭素経営実践セミナー ※要事前申込(先着10社様)	1月24日(火)	14:00 }	草津市立市民交流プラザ (フェリエ南草津) 5F 中会議室	(一社)滋賀グリーン活動ネットワーク会員様を対象に、エネルギー使用量の削減による価格高騰への対応と今後の脱炭素経営に向けた具体的な取り組みを進めていただくためのセミナーを開催します。
水草たい肥配布	※上の記事を 参照ください	10:00 }	県内6か所	琵琶湖の南湖を中心に異常繁茂する水草をたい肥にして、登録モニターの皆さん(配布当日の登録可)に無料配布します。
令和4年度 ラムサールびわっこ大使報告会	2月25日(土)	11:00 }	滋賀県庁	活動の締めくくりとして、この一年間で経験したり学んだりしたことを発表します。
令和4年度 第2回 滋賀県地球温暖化防止活動推進員研修会	3月8日(水)	13:00 }	草津市立市民交流プラザ (フェリエ南草津) 5F 中会議室	地域での地球温暖化対策の取り組みを進める推進員の研修会を行います。

公益財団法人 淡海環境保全財団 「明日の淡海」

VOL.40 2023年1月  
(年4回発行)

発行 公益財団法人 淡海環境保全財団

〒525-0066 滋賀県草津市矢橋町鼎帆2108番地  
TEL:077-569-5301 FAX:077-569-5304 E-mail:info@ohmi.or.jp

【滋賀県地球温暖化防止活動推進センター】  
TEL:077-569-5301 FAX:077-569-5304 E-mail:ondanka@ohmi.or.jp

【淡海環境プラザ】  
TEL:077-569-5306 FAX:077-569-5334 E-mail:plaza@ohmi.or.jp



- 用紙:責任ある木質資源や再生資源を使用したFSC®認証用紙
- インキ:環境配慮型インキ(植物油インキ or ノンVOCインキ)
- 印刷:有害な廃液を排出しない水なし印刷

編集後記

3年ぶりに行動制限のないお正月を過ごすことができました。感染対策を取りながら、財団事業もより一層の取り組みに励んで参ります。水草たい肥も配布を再開しますのでぜひ使ってみてください!